

## IEA石油市場年次レポート2017の概要（2017年3月6日公表）

（代表部抄訳のため、正確にはIEAのホームページを参照）

### <OPEC減産合意>

昨年のレポートでは、石油の自由市場について強調したが、その一年後に市場の管理が戻ってきた。今回のレポートでは、OPECの減産合意とその合意が2022年までの石油市場予測の背景を形作っている。この合意がどれくらい持続するかはわからないが、OPECと非OPECの生産者が2017年の前半6ヶ月の生産を削減するという決定が石油価格の上昇をもたらした。

この合意に至るまで、油価はブレンドが30ドル／バレルより低い価格で取引されていた2016年初めの水準に戻る兆候を示していた。そのような低油価は全ての石油生産者に歓迎されないものであり、OPEC加盟国にとっては、輸出額は2012年の1.2兆ドルから2016年の0.45兆ドルに急落し、大きな財政上の緊迫を引き起こし、いくつかの国では難しい政治的状況を一層悪化させた。

### <油価と上流開発投資>

世界的な石油・ガスの上流開発への投資は、2015年に25%減少し、2016年には更に26%減少し、主要な石油会社も小さな独立系石油にも影響を及ぼしている。2017年は、米国の軽質タイトオイル（LTO）地域での投資増加に牽引された控えめな回復の兆しが見えている。米国の軽質タイトオイル生産者は、より著しい2015年の30%減、2016年の22%減を経験した。

油価下落期が続くと重要な投資判断を更に抑制し、今回の予測期間の後半で必要としている生産回復を脅かすことになる。現状のように投資が回復する時は、より効率的な石油産業を報いることになる。

OPECの減産合意は（完全に実施されれば）180万バレル／日となる生産削減が、米国等の非OPEC全体の生産が回復し、原油と石油製品の備蓄量が記録的に高い水準になっている時に実施されている。生産削減の中での豊富な供給が行われているというシナリオのため、今回の5年間予測の前提として将来の価格変動を小さいとしている。

むしろ価格予測は静的なものではないが、投資環境が依然として悪いにも関わらず投資家は石油の供給が需要を下回るとは考えていないということが示されている。今回の予測期間の終わり頃には1.04億バレル／日の市場規模の中で、OPECの原油供給は2016年の3,220万バレル／日から2022年には3,580万バレル／日（+360万バレル／日）に上昇するだろう。この期間にOPEC加盟国の生産能力が195万バレル／日の上昇に留まることが予測される中、これは余剰生産能力が200万バレル／日を下回ることを示唆する。

これは、石油市場がタイトになり、期待される価格も高まることを示唆する。現在の過剰在庫が減少するにつれて、投資が回復するかどうか、そして、政府や企業が新しいプロジェクトを進めるかどうかが主要な論点となる。新規プロジェクトが進まない場合、将来の石油価格が上昇していくことになる。

### <需要>

需要側を見ると、最近の傾向としてはより寒い冬などの影響で上方修正となっているが、油価の劇的な下落（2014年の100ドル台から50ドル台／バレルに）が需要増にも大きな影響を与えた。需要増は、2015年に200万バレル／日、2016年に160万バレル／日となった。2022年まで、世界の石油需要は毎年120万バレル／日増加することが見込まれる。

非OECD加盟国では、伸びしろが依然大きく、2022年まで毎年140万バレル／日までの増加を見込む。中国の2022年までの5年間の成長は年率2.4%と、（2016年までの5年間の年率4.8%や2011年までの5年間の年率5.5%と比べて）成長が鈍化している。他方で、インドの成長は注目の的になってきており、現在一人当たり1.2バレルの年間消費が2022年には1.5バレルに増加することが見込まれる。他の発展途上国においても自家用車購入に従って燃料消費が増加することが予想され、2022年の段階では電気自動車による石油燃料の代替は限られていると見込んでいる。本レポートではトラック等への燃費基準強化の影響も検討したが、5年の予測期間内では需要パターンを大きく変えるというよりは、成長を遅くするに過ぎない。こうしたことから、石油需要のピークについては依然として将来の話となるだろう。

### <供給>

我々の予測に影響を及ぼす供給側の要素に目を転じると、特に米国のL T Oの生産が最も重要。油価が60ドル／バレルを大きく超えない中でも、L T Oの生産は2022年まで継続して増加し、140万バレル／日の増加となるだろう（仮に80ドルまで上がれば、同期間に300万バレル／日の増加）。他の国では、ブラジル、カナダ及びカザフスタンで大きな増加（2022年までに200万バレル／日）を見込んでいる。（非O P E C全体で330万バレル／日の増加の予測）

O P E C加盟国について、リビア、ナイジェリア、ベネズエラの予測は立てにくいだが、生産能力増加の大部分は中東の主要生産国で、O P E C全体195万バレル／日の増加となる（生産能力増と実際の生産増は別物）。

### <石油貿易>

世界の石油貿易の流れが変化しており、O P E C加盟国からの輸出は50万バレル／日の増加に留まる中で、ブラジルとカナダからの輸出が160万バレル／日増加することが予想される。これまで成長するアジア市場に供給をしてきた中東の生産者だけでは、アジアの原油需要に対応できなくなってきた。この貿易の流れの変化は、更なる石油備蓄施設の必要性を強調している。

### <投資の必要性>

本予測期間の終わりにかけての石油価格の急激な上昇のリスクを回避するため、より多くの投資が石油生産に必要となるということを強調したい。現在の石油市場はこの問題に対して楽天的のようだが、歓迎されない油価が先に控えているかもしれないということが実感されるまでそう長くはないかもしれない。